

# 日本原子力学会核燃料部会

## 平成15年第3回運営委員会議事録

日時:平成15年7月10日(木) 11:50~13:05

場所:夏期セミナー 新潟県妙高パインバレー ロイヤルパインズホテル

出席者(順不同、敬称略):

山脇部会長、森副部会長、安部田委員、伊東委員、緒方委員、木下委員、久保田委員、  
杉崎委員、林委員、更田委員、松井委員、和田委員、松本委員

[代理出席] 森本氏(河野委員代理)、米山氏(坂井委員代理)

議事:

松本委員より、前回議事録及び総会議事録の確認はメールにて承認取得しホームページへ掲載済にて議題から省略した事を説明。

a. 前回平成15年第2回運営委員会議事録・・・資料0-1

b. 前回平成15年第20回総会議事録・・・資料0-2

### 1. 原子力学会秋の大会における企画セッションについて

和田委員より、学会に提出した原子力学会秋の大会における企画セッション提案書について[資料1]、水野氏に依頼し快諾を得て学会へ連絡している。水野氏からは45分だとおられており、最低60分の学会要求と齟齬があるが、学会事務局も了解しており、時間については今後詰めるとの報告があった。

秋の大会のプログラムは先日のプログラム委員会で決まって60分取ってあるはずである。

この場は核燃料部会のアクティビティをアピールするかなり重要な機会であり、部会としてのプレゼンテーションの場なので、この人の講演を補強するという事に使うか、核燃料部会のプレゼンテーションとして使うか、空き時間が出来て休憩ということが無いように、積極的に15分の活用策を詰める事となった。

### 2. 核燃料部会部会報(平成15年12月発行分)執筆者の推薦について

坂井委員代理の米山氏より、前回運営委員会及び総会で決定した年1回発行となった12月部会報の執筆者の推薦について[資料2]報告があった。

検討の結果、

- ・部会報が年1回発行となったので、会議案内、ニュース等はホームページで補完して行く
- ・国際会議紹介に2003年IUPAC高温化学会会議報告—山脇部会長を追加
- ・会員の声に夏季セミナー出席者の中から2名程度、感想等の投稿者選出を更田委員に依頼

となった。

### 3. 平成16年夏期セミナー企画立案状況について

伊東委員より、来年はGNF-Jと北大の担当で、まだ構想も出来てないが北海道と九州で行うときは好評で参加者も多く、今までと今回のアンケート等を参考にして100名規模を想定して、北大佐藤先生と相談し、来年春の年会までに確定するように取り進めるとの報告があった。

### 4. 軽水炉燃料専門家会議2005年開催について

木下委員より、2005年10月3日~6日国内開催に向けた全体工程表案、組織委員会委員案、開催会場の選定案会[資料4]について報告があった。

委員会は、ペーパーを選定してプログラムを決めるプログラム委員会と会場設営・資金を決める組織委員会と2つ立ち上げる。

まず組織委員会を立ち上げ、委員としては委員長に(原電)出澤正人氏、副委員長に(原研)石島清見氏に決定した。

組織委員会委員名簿案について、安部田委員よりMHI, MNF, NDCについて人事異動等により変更させて貰いたい旨報告があり、概の構成としては了承された。

開催会場としては外国の人は京都希望者が多く参加者も多く集まること、また京都駅近くの新しい施設である京都テルサから熱心なPRがあったことから、京都テルサを第1候補として検討中との事であった。

## 5. 核燃料部会ホームページについて

河野委員代理の森本氏より、前回報告以降のホームページ等の更新内容、今後の予定について[資料5]報告があった。

検討の結果、

- ・昨年夏季セミナー時の調印式写真等が削除されているが、ホームページは昔の資料も削除せず貯めて行く事が大事であるとの意見があった。

【後日河野委員から連絡あり、昨年の夏期セミナーでの写真は現在でもホームページ上の「2002年核燃料部会・夏期セミナー」で見ることができ、学会のホームページから核燃料部会ホームページに入る時は、従来通り、部会・研究連絡会の欄の「核燃料」から入ることが出来るとのこと。】

- ・ホームページの核燃料部会の表示が別の字になっていたような時があったとの意見があり、確認する事になった。

【後日河野委員からの連絡あり、確認した結果現在のところ問題無しとのこと。】

- ・サーバーを何時までJNCにお願いする事になるのか議論となった。チェック体制の問題から、望ましくは大きな組織のサーバーでは無く、大学の研究室のサーバーが良いが、担当で無くなった以降も引き続きお願いするのは難しいかもしれない等の意見が出せれ、当面は核燃料サイクル開発機構にお願いする事になった。

【後日河野委員から連絡あり、ホームページは国立情報学研究所 学協会情報発信サービス (<http://wwwsoc.nii.ac.jp/>) のサーバーから発信しており、JNCのサーバーではなく、従ってJNCのチェックも入っていない。JNCはホームページ担当幹事として、庶務幹事等からの原稿をホームページ掲載用に編集・作成し、これを掲載しているとのこと。】

## 6. 学会誌への連載講座について

森副部長より学会誌への連載講座投稿について、連載に当たっての案(どんな考え方で作成するのか、対象者、範囲の基本的な考え方)、連載講座目次案(各題目毎の執筆者、執筆依頼担当者、回数、備考)、編集委員会説明用“核燃料技術の基礎”連載講座構成案 [資料6]の報告と下記説明があった。

- ・連載講座を担当されていた前々回副部長の近藤氏に相談した所、対象は大学の工学部で原子力を遣り始めた程度の人を対象で軽水炉がメインとの事なので、その趣旨に沿って目次を作成した。

- ・編集委員会へ目次をもっと詳しくした概要の説明が必要となる。連載講座は1回当たり刷り上がり5ページで10回であり、10回分全ては必要無いとの事なので、最初の5回分について目次内容の詳細版を作成途中である。残りは後日説明となる。

- ・編集委員会が月1回あるので9月か、10月に説明したい。

- ・連載開始は春の段階では出来るだけ早くであったが、他部会で準備できたとの事で、来年前半位からとなる見込みである。

検討の結果、

- ・軽水炉がメインは良いが、テキストであればその他の原子炉も入れるべきで、最後にその他原子炉もあるから良いが、高温ガス炉が入っていないので検討を。

・通常時の燃料ふるまいが設計の中にあり、燃料ふるまいのところには過渡時、事故時、保管、貯蔵時となっているが、通常時の燃料ふるまいをどうするのかとの質問があり、設計の回数を2.5回分と長く取っているのが、まだ充分擦り合わせが出来ていないが、今後詰めて9月編集委員会に説明出来るようにしたいとの回答があった。

・世界でベイシックの研究開発があり、燃料の研究開発は0.3回で良いのか質問があった。事故時でなく通常時の燃料も長期間使用の高燃焼度になってくるとこういう問題が発生してきて、それに対して世界の大学、研究機関でこういうベイシックな研究開発をやっていると解説した方が良いとの意見である。この意見に対し、対象者がこの世界の専門家ではなく、大学の工学部で原子力を遣り始めた程度の初心者であり、入門編に留めるべく、例えば高燃焼度被覆管の開発は当該項で記述し、ここでは開発のステップ、燃焼後の試験検査、実用化の許認可等を記述予定との回答があった。

・編集委員から燃安専の教科書の欠点と思われる事は、使用される原子炉側のことが余り書かれてない、つまり高温高圧なので燃料棒はこうなったという記述が足りないのではないかとのコメントがあった。その点で燃料の使用条件の所で、その辺を明らかにし、PWRとBWRの違いも記述して行く。

・大学の工学部で原子力を遣り始めた程度の初心者を対象にするならば、例えばペレットの温度はこう測り、こう計算評価する等プラクティカルに使い、原理やスペックを決めるプロセスが理解出来るものに出来たら非常に良い。

等の意見が出され、今後もう少し詰めた編集委員会説明用連載講座構成案資料を後日Eメールで送り、コメントを頂くことになった。

## 7. 運営委員交代

松本委員より関西電力から提案のあった下記委員交代について紹介(資料7-1, 資料7-2)を、7月から交代が承認された。

(関電) 後藤 健 委員 → 藤田 元久 委員

## 8. 今後の予定

松本委員より以下の予定が報告され確認された。

・平成15年第4回運営委員会と会員総会:

平成15年9月24日～26日 秋の大会時(静岡大学)

・平成16年第1回運営委員会:平成15年1月 (別途ご案内)

・平成16年第2回運営委員会と会員総会:

平成16年3月29日～31日 春の年会時(岡山大学)

## 9. 山協部会長閉会挨拶

開会の挨拶で申し上げたように学会の活性化策が求められている。従来からの活動である夏季セミナー、部会報、ホームページ、春の年会・秋の大会における企画セッション等ルーティン化した活動となっているのではないかと考えます。国際協力の面では、日米両原子力学会間の協力、並びに日(亜)米欧3極国際集会所ローテーションを開始できたことは、大きい成果ですが、実績を残せるように一層の努力が必要です。国内での核燃料に関する研究、教育、社会啓発の推進を図るため、イベントなどを企画することも望まれます。

また、学会全体としての活性化策として問題となっているのは、部会賞、支部賞をどうするかということで、学会の原案ができて各支部、部会に意見を求めてきています。私から、全体の賞との重複を避けることを条件にして、後は各部会、支部の自主的判断に任せるのが良いのではないかと回答しておきましたが、御意見があればお寄せください。核燃料部会に賞を設けるべきか否かについては、今後検討していきたいと考えます。

以上

---

過去の運営委員会議事録の一覧はこちらです。

[過去の運営委員会議事録一覧](#)

もどる